

男女共生講座を 家庭教育学級で開催しました

講師 松木 和美 さん
(前大分市男女共同参画推進懇話会委員)

今年度大分市男女共同参画推進室では市内の家庭教育学級に呼びかけて、ドメスティックバイオレンス(DV)問題を分かりやすくお話ししていただく講義とともに、身近な問題から男女共同参画を考えるワークショップ形式の講座をおこないました。



ワークショップとは
講師の話に参加者が一方的に聞くのではなく、参加者自身が討論に加わったりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習

参加された方の声

- ・「DVの具体例・加害者の精神状態などもっと聞きたい。」
- ・「問題を自分のこととして考えることができた。また、他の方のいろんな意見を聞くことができよかった。」
- ・「意見を出し合うことで、自分の感じていたことが、多くの人も感じていることだったと気づいた。」

などの声をいただいています。

自分らしく生きて夢を語る 市民劇団の公演が行われました

平成16年12月1日「大分市福祉を語る女性の集い」(コンパルホール文化ホール)において市民グループ「サラサラ本舗」劇団による『たそがれて今ubaざかりPART2「いつかきっと」』の公演が行なわれました。人が年を重ね悩み苦しむ中で生きがいを見つけ、自分を発見していく姿を生き活きと演じる舞台は見る人を勇気づけるものでした。この演劇は団員自ら考え企画し、演出、上演されました。そこで代表の篠永朋子さんにお話しを伺いました。



グループ結成のきっかけは？

かれこれ15年程前「沙羅の会」という名前で長崎・広島の被爆者の手記「この子たちの夏」を読むことからスタートしました。子どもを持つ親として二度と我が子を戦場に送りたくない、そして多くの子どもたちに被爆者の悲惨な状況を語り継いでいきたいという気持ちで10年間大分県内の小中高と巡りました。ちょうど湾岸戦争のきな臭いにおいのする社会情勢でした。10年間の朗読劇活動の中でしたが元から芝居の好きなメンバーはやはり演劇の魅力も忘れられなくて「サラサラ本舗」と名称を変え40歳代から60歳代の5人のメンバーで発足しました。

いつ頃から、活動していたのですか？

第一作目は2000年にスタートした介護保険のことや、グループホーム等を組み入れて高齢代を迎える女性の行き方を問う「たそがれて今ubaざかり」を自主公演。その後あちこちから依頼があり、第2作目は2003年にPART2「いつかきっと」を制作。高齢者の愛やロマンス、死後の墓の問題を取り入れ公演。多くの方々の共感を得ることができました。

子育てをしながら活動を続けたわけ

「子育てをする」というのは毎日子どもに愛情を注ぎながら、子どもにつきっきりで世話をすることだけではないと私は思っています。私自身活動の中でい

んな方と出会い社会体験や人生経験を積み重ねてきたと思っています。また目には見えませんが私(母親)の価値観や感性も、同時に子育ての大事な心の栄養素となってほしいと願ってきたのですが...。今だから言えるのですが子育ても演劇活動も車の両輪のように私にとっては大切でした。でも実はそれを前進させてくれたのは夫だったということにしておきましょうか。

先日の公演(2004年12月)を見せていただいたのですが、肩の力を抜いて出演者の方々が、とても伸びやかに楽しんでいらっしやるようでしたね。

演じる側は水鳥のように、水面下では、バタバタもがいていても、見ている人には楽しく見ていただきたいと思っているので、うれしいですね。見て楽しんでくれる人がいる限りプロではないのですが、皆プロ意識を持って取り組んでいきたいと思っています。

「人生は人との出会い」と、にこやかに言い切る篠永さん。いつも人とのかわり合いの中から新しい発見をしつつ、ご自分を表現される彼女の姿には年齢のことなど忘れてしまうほどでした。



代表の篠永朋子さん